

房総の 文化財

VOL. 11

ISSN 0910-0848
Bōsō no bunkazai

平成8年11月25日
財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850



発掘調査速報

ふな おしらばた
今も昔もニュータウン～印西市船尾白幡遺跡

千葉県北西部にある千葉ニュータウンは、今新しい街づくりがどんどん進んでいるところです。その中心となる印西市の南部に船尾白幡遺跡があります。

現在発掘調査中ですが、今までに弥生時代や平安時代の家の跡などが多く見つかっています。

千葉ニュータウン関係の発掘調査が進むにつれ、この地域の昔の様子が少しずつわかってきました。それによると、この船尾白幡遺跡と近くにある鳴神山遺跡には平安時代の初めころ(約1,200年前)に人が住み始めたようです。家や倉庫など

船尾白幡遺跡



の跡が見つかっていることから、当時のムラの一部であったことがわかります。ここは、いわば古代のニュータウン。つまり、昔から人が生活するにふさわしい場所だったと言えます。

遺跡の調査中に写真のような焼けた土や炭が埋まった平安時代の家の跡が見つかりました。これは、屋根を支える材料などが焼け落ちたものです。火事のためなのか、あるいは引っ越しの時の片づけで家を焼いたのかも知れません。当時の家の造り方を知る手がかりになります。

この遺跡で、8月31日に「来て！見て！歩く！歴史の散歩道～船尾白幡遺跡見学会～」というテーマで遺跡の見学会を行いました。近くからはもちろん、県内各地から250人あまりの方が見学にみえました。全長800mの見学コースを自由に回り、調査中の弥生時代や平安時代の家の様子を見学しました。

出土品コーナーでは、「くるる鍵」という錠を開ける鉄製品の使い方(これについては、[Q&A]に詳しい説明があります)や、墨で文字の書かれた土器につい

見つかった平安時代の家のやけ跡



船尾白幡遺跡見学会の様子

ての質問が多くありました。

千葉県文化財センターでは、発掘中の遺跡の見学会を年に数回開いております。

是非、お気軽にご参加ください。

収蔵遺物コーナー

ふな がた
舟形土器～流山市上貝塚貝塚

縄文土器というと、縄文や線の文様、立体的な装飾が施された土器を思い浮かべます。文様のおもしろさとともに、縄文土器には様々な形をした土器が見られます。

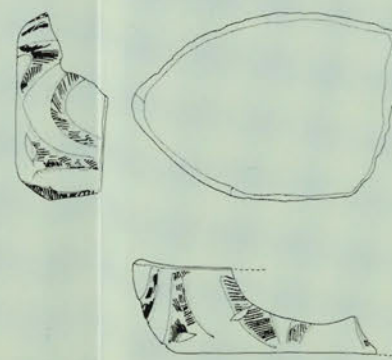
今回紹介する遺物は、県道松戸野田線の道路沿いにある流山市の上貝塚貝塚という縄文後期の貝塚を調査中に、地面に掘られた穴の浅いところから出土した舟の形をした楕円形の土器です。全体の3分の1ほどが欠けていますが、復元すると長さ30cm近くの大きさになります。文様の特徴から見て今から4,000年ほど前の縄文時代後期のものと思われます。保存する区域の調査でしたので、全部掘ってしまわずにどのような遺構があるのかを確認するだけでしたから、穴の形やどのような事情でこの場所に残されたのかはわかりません。

一般的な土器は上から見ると円形ですが、この土器は楕円形になっています。県内での出土例には、千葉県の中野僧御堂遺跡、内野第1遺跡等がありますが、この舟形土器は大き

く、きちんとした文様が付けられている点に特徴があります。

縄文土器の形は、深い鉢や甕が主流です。煮炊きのために、水を入れ炊にかけるのに適した形をしていたからです。時代が新しくなると碗や壺など種類が増えてきます。縄文時代も後期・晩期は変わった形の土器のオンパレードで、例えば口の二つ付いた土器、急須の形をした土器、台の付いた土器、香炉のような形をした土器等々数多くみられます。これらの特殊な土器の存在は、煮炊き専用から、お酒のような液体を入れたり、現在ではわからないような使用法が加わったことを示しています。この時期には、土偶や耳飾りなどの土製品が豊富に見られ、まじないや祈りが生活のなかで重要であったことが考えられます。舟形土器もそうした生活の中で作られた土器で、まじないや祈りに使われたと想像されます。

千葉県内の最新出土考古資料の大集合展「地中からのメッセージ」開催中
沼南町石場遺跡出土旧石器時代石器他21遺跡約850点展示



遺跡今昔物語

水の恵みを活かして～手賀の丘少年自然の家物語

千葉県を代表する湖沼に印旛沼と手賀沼があります。かつて、それぞれの沼は今よりもずっと大きく、魚や貝などの良い漁場であり、舟を使っての人や物の交通路でもありました。海水面の高かった縄文時代の前期には、太平洋から海水が入り込む内海だったこともあります。印旛沼と手賀沼の周辺は千葉県でも遺跡の集中する地域の一つです。



水と緑に恵まれた手賀沼のほとりに、少年たちが自然にふれ、集団生活を学ぶ「千葉県立手賀の丘少年自然の家」が建設されました。このとき、調査されたのが沼南町石場遺跡です。調査の結果、旧石器時代から古墳時代にかけての生活の跡が見つかりました。時代によってはムラとして利用されたり、墓地だったりしています。旧石器時代に長野県から運ばれてきた黒曜石を材料に石器が作られた跡、方形周溝墓といわれる正方形に溝がめぐる弥生時代の末ころのお墓などがみつかっています。



今、「手賀の丘少年自然の家」では、多くの小中学生が、昔の人々と同じ場所でキャンプ生活を楽しみ、自然の恵みにふれ、集団生活の大切さを体験しています。



いしあけ
石場遺跡かんたん年表

旧石器時代(約30,000年～12,000年前)

人がくらしを始め、石器作りが行われ、石器のまとまりが21か所残される

縄文時代

早期(約9,000年～6,500年前)
貝殻の縁で文様を付けた土器が流行する

家が4軒つくられる
炉穴という調理用の炉が39基、
落とし穴21基がつくられる

前期(約6,500年～5,000年前)
縄文で飾られ、植物の繊維を混ぜた土で焼かれた土器が流行する
家が21軒つくられる

中期～後期(約5,000年～3,000年前)
貯蔵用・墓用の穴(土坑)が69基つくられる

家が2軒つくられる
晩期(約3,000年～2,000年前)
ほとんど人が生活しなくなる

弥生時代

後期(紀元2世紀～3世紀)
方形周溝墓というお墓が5基つくられる

古墳時代

前期(紀元3世紀後半～4世紀)
家が5軒つくられる

中期(紀元5世紀)
家が21軒つくられる
後期(紀元6世紀)
方形の古墳が1基つくられる

誰も住まなくなる

・
・

平成元年～2年(1989・1990)

発掘調査が行われる

平成5年(1993)

県立手賀の丘少年自然の家オープン
27,000㎡の敷地に映像ホール・プラ
ネタリウム
300名の宿泊施設・キャンプ場など

平成6年(1994)

県市町村の図書館などで見ることが
できる、発掘調査報告書刊行される

埋文アラカルト



大きな土偶・小さな土偶

縄文時代には素焼きの人形のようなものがたくさん作られました。現代の私たちは土偶と呼んでいます。いったい当時の縄文人はどんな呼び方をしていたのでしょうか。土偶は女性の胸のふくらみを表したものがついているものがほとんどで、男性像は数例しかありません。大きさは様々で、とても小さいものから、40cmを越えるような大きなものまであります。

写真は佐原市^{ときどきかいづか}鶴崎貝塚から発見された高さ3.3cmの小さな土偶です。今から約8,000年前に作られたものです。顔の部分がなくなっています。手と足は、作られませんでした。大きな顔は市川市^{ほりのうちかいづか}堀之内貝塚から発見された土偶の顔の部分です。顔だけで10cmくらいあり鶴崎貝塚の土偶とは大きさがだいぶ違います。このくらい大きな土偶だといつも持ち歩くことはできませんが、鶴崎貝塚のように小さいと、キーホルダーやお守りのように持ち歩くことができそうです。縄文人はこの土偶をいったいどんな願いを込めて作り、どんなふうに使っていたのでしょうか。また、大きさの違いはなぜあるのでしょうか。

Q&A

ふな おしら はた
印西市船尾白幡遺跡現地見学会(8月31日)の質問から 発掘調査速報参照

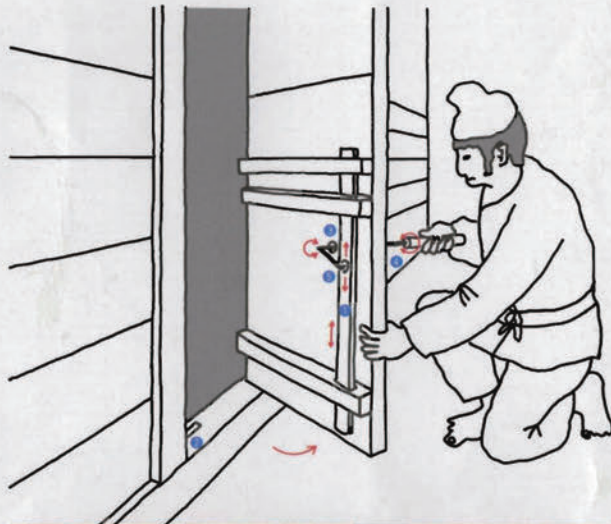
Q「出土品のくるる鍵はどのように使われたのですか。」(印西市中学生ほか)

A 出土品の、鉄の棒を折り曲げただけのように見える鉄製品は、「くるる鍵」といい、その使用法は、右の図のようになります。

ふだん倉庫の扉は、扉の内側の落とし棒(①)が敷居の穴(②)にがっちりとはまっていて外からは開かないようになっています。扉には小さな穴(③)がありますが、小さくて手も指も入りませんし、ただの細い棒などを突っ込んでも扉は開きません。

開けるときにはこの小さな穴に「くるる鍵」(④)を差し入れ(ちょっとこつがいります)落とし棒のくほみ(⑤)に引っ掛け、回転させると落とし棒が持ち上がって扉を開けることができます。この時に、鍵の各部分の長さや太さがぴたり合わないとう扉は開きません。「大切な物が本当に守られているのだろうか？」扉の開く瞬間は緊張の一瞬です。現在でも神社の建物などに使用されているところがあります。

平安時代の船尾白幡のムラの人たちにも大切な物がありました。神様や仏様にかかわるもの、来年の米作りのための種もみ、農作業に必要な鉄製の農具などは盗まれては大変です。ですから、ムラの中に^{かみじょう}頑丈な倉庫を建てて、扉には錠をつけて^{けんじょう}村の長がその鍵を厳重に管理していたと考えられます。



地中からのメッセージ

第一回最新出土考古資料巡回展

●会場…千葉県立関宿城博物館
平成八年十一月三十日～十二月二十五日
●会場…千葉県立房総風土記の丘
平成九年一月十一日～二月十一日

(表紙写真撮影…堀越知道)

房総の 文化財

VOL. 12

ISSN 0910-0848
Bosō no bunkazai

平成9年1月6日

財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850



発掘調査速報

中世の屋敷と墓地 ～東金市前畑遺跡

前畑遺跡は、千葉東金有料道路と国道126号線（東金街道）が東金市で合流する地点のすぐ近くの北側台地上に位置します。東金有料道路を松尾町までのばす工事のため一部を調査することになりました。遺跡は、調査区の南側に生活の跡が集中し、奈良～平安時代（この遺跡では8世紀～9世紀が中心）の建物の跡約50軒、縄文時代の家の跡、埋蔵（埋められていた大きな土器）などが見つっています。



またそれらとは別に、中世の室町時代から戦国時代にかけて（この遺跡では15世紀後半～16世紀後半が中心）の墓地と屋敷跡の一部が見つっています。墓地は調査を開始してすぐに、地中から墓石などがいくつかまわって見つかったために、その下に墓地があることがわかりました。約25m×12mの範囲に土葬の墓穴約100、火葬した跡約20の計120がまわって、複雑に重なりあって掘られています。土葬は遺体をそのまま土の中に埋める方法ですが、埋めるときにひざを折り曲げ腕を抱かせるようにして右側を下にして、横向きに寝かせて埋めたものが多く見られました。一方火葬は、遺体を火で焼いて骨にしてから埋める方法ですが、空気の通り道を作るためにトンネルを掘り、穴の中に木やわらを積みその上に遺体を置いて焼いたものです。そして焼き終わると、そのまま土をかぶせて埋めてしまう方法が多くみられました。これらの墓穴からは人骨と銭（おかね）が多く見付き、残りが良くて骨の状態が良くわかるものがありました。また、火葬の跡の中では、焼け残った中国製の焼き物の小皿（白磁）、髪の毛をと



かす櫛、銭類が見つかった穴もありました。銭は死んであの世に行くときに渡ると言われる川（三途の川と呼ばれています）を渡るのに必要な通行料と考えられています。これらの墓地は室町時代の村の共同墓地とみられます。

一方、室町時代～戦国時代にかけての屋敷の跡とみられる堀が見ついています。堀は幅約4～5m、深さは約1.5mでV字型に掘り込まれ、長さは調査分で約100mあり、さらに調査区の外にのびてい

ます。建物の柱の穴やほかの穴も少し見つかり、これからの調査によっては屋敷跡の全体がはっきりしてくるかもしれません。堀は使われなくなっから埋められています。

収蔵遺物コーナー

小さな仏像 ～八日市場市大堺・塔ノ前遺跡



八日市場市の横須賀城跡近くの大堺・塔ノ前遺跡から江戸時代の遺物といっしょに高さ4.45cmの小金銅仏が見つかりました。この仏像は左手の一部が欠けていますが、鎌倉時代に作られた物で、お釈迦様を守る四天王の一人である持国天であることがわかりました。仏像は右手を腰に当て、左腕は横にあげていて、手には戟（中国古代の武器の一つ）を持っていたようです。四天王とは仏教の世界の中心にそびえ立つ須弥山の中腹に住み、それぞれ東を持国天、南を増長天、西を広目天、北を多聞天が守護します。仏教の寺院では通常本尊を中心として、四隅に配置されます。そのうち持国天の仕事は国土を

護持し（守り）、人々に安らぎを与えることであり、そのため持国天と名づけられました。この、小金銅仏はその大きさからいって寺院などの本堂で用いられたものではなく、寺の僧侶がふだん生活する部屋に置かれたり、かんたんなお堂の本尊であったり、仏間に置かれ仏様とされていたようです。また、武将が髪に結びつけたり、兜の中に納めた例や、旗の先につけたとか、お守りにしたという伝承を持つものもあります。

この小金銅仏は、当時の城や寺院に生活していた人々の仏教への思いを示す貴重な資料とい



えます。

千葉県内の最新出土考古資料の大集合展
「地中からのメッセージ」
開催中
成田市南羽鳥中嶋遺跡出土
「人頭型土製品」他
20遺跡約800点展示

遺跡今昔物語

いっぽんの道から～県道成田安食線物語

私たちの生活に道路が欠かせないものであることは言うまでもありません。道路の多くは昔から使われ、しだいに道幅を広げ整えられ今にいたっていますが、高度経済成長期の1960年代ころから地図にはまったくなかった道路が計画的につくられるようになりました。その一つがここに紹介する県道成田安食線と呼ばれているバイパスです。成田市寺台から印旛郡栄町安食までをつないで、新東京国際空港や成田ニュータウンなどへの交通量を調節するためにつくられました。計画された道路の下にはたくさんの遺跡があることがわかっていましたから、道路を建設する前に発掘調査が行われました。調査された遺跡は、旧石器時代から江戸時代までの12遺跡です。

このなかで上福田13号墳は、写真のような貝の化石がまざった石でつくられた石室（遺体を納める部屋）が発見され、たいへん重要な古墳であることがわかりました。そのため、工法を変えて石室は残されました。

他にも奈良時代を中心とした郡役所などの貴重な遺跡も見つかりました。道に沿って簡単に紹介してみましょう。

上福田保町遺跡

縄文後期（約4,000年前）に一時人々が住む。

古墳時代に家が1軒つくられ、カマドの神様におはらいをしたりする。

仲兵衛遺跡

縄文早期に人が訪れる。縄文後期に一時人々が住む。

奈良時代に家が1軒つくられる。

下福田稲荷原遺跡

縄文早期に人が訪れる。縄文後期に小さなムラがつくられる。

平安時代に家が建てられる。

江戸時代（1603～）に近くに住む人々が土を盛って、庚申塚をつくる。

大畑遺跡から上福田13号墳までの周辺には竜角寺古墳群・上福田古墳群など一辺が86mという日本最大の方墳（岩屋古墳）を含む140基以上の古墳がつくられる。



現在の土福田13号墳付近

向台遺跡

古墳時代（この遺跡群では7世紀から）から平安時代（西暦794年～）まで役所の隣町としてたくさんの人々が集まり、掘立柱の建物もつくられる。

大畑遺跡群

古墳時代の終わりにから平安時代まで郡の役所が置かれ、大きな掘立柱の建物が並ぶ。たくさんの人々が集まり、この地域の政治の中心となる。

池上遺跡群

縄文早期（約9,000年前）にムラができる。

五丹歩遺跡

古墳時代に2軒の家がつくられる。奈良時代に墓地として使われる。

前原遺跡群

旧石器時代（約12,000年前）人が訪れる。

古墳時代の終わりに方墳がつくられる。

奈良時代にムラができる。

土福田和田谷津遺跡

古墳時代に家が2軒つくられる。

※～※はバイパスの範囲

烏内遺跡

縄文中期・後期にムラができる。

古墳時代から平安時代までときどきムラができ、にぎわう。

埋文アラカルト



大きな五輪塔



小さな五輪塔

古いお寺では、最近の墓石とはちょっと違った立派な石塔をよく見かけます。写真は船橋市西福寺にある五輪塔（県指定有形文化財）です。高さ2.84mの安山岩製の堂々たるもので、鎌倉時代後期に造られたものです。五輪塔は、平安時代の末ころから江戸時代にかけて、供養塔や墓石として武士や僧侶によって立てられました。5個の部材が積み重ねられていますが、上から空（団）・風（半月）・火（三角）・水（円）・地（方）という仏教五大思想の中の宇宙を表しています。

右下の小さな五輪塔は、水晶製のもので高さはわずかに3.1cmしかありません。地・水・火の部分が、一個の水晶を彫り出すことで作られています。中心に穴があり、空・風の部分は別造りで差し込まれていたものと思われます。木更津市笹子城跡の調査で独鈷杵などの仏具とともに発見されました。全国的にも貴重な資料ですが、ほかの例では小さな厨子に納められたり、仏像の胎内に納められたものがあります。城の年代は15世紀後半から16世紀前半で、戦乱の中で武士達が残した資料です。

Q&A

「地中からのメッセージ」第1回最新出土考古資料巡回展 質問から

「新聞で指紋を使って埴輪を研究するという記事を見ましたが、何がわかるのですか。展示されている埴輪にも残っているのですか。」

A 最近始められた研究のひとつに、埴輪の表面に残された指紋をさがし出して、工人のことを明らかにしようという研究があります。犯人をさがし出すために指紋の鑑定を行っているように、指紋はひとりひとり違っていることから、ひとつの埴輪に残った指紋を鑑定して、埴輪を作る作業にかかわった人の数や、どのように作業を分担していたのかなど、今までわからなかった点を明らかにしようとするもので、ひとつの古墳に立てられた埴輪全部を調べれば、何人の工人が埴輪造りにたずさわったのかを明らかにできるかもしれません。この研究はまだ始まったばかりですが、今後の研究成果がおおいに期待されています。

展示品の小川崎台遺跡の埴輪にも指紋は残っていますが、写真（小川崎台遺跡出土の別の埴輪）のように全体がはっきり残っているものはごく一部です。



地中からのメッセージ

第一回最新出土考古資料巡回展

●会場

千葉県立房総風土記の丘
平成九年一月十一日～二月十一日

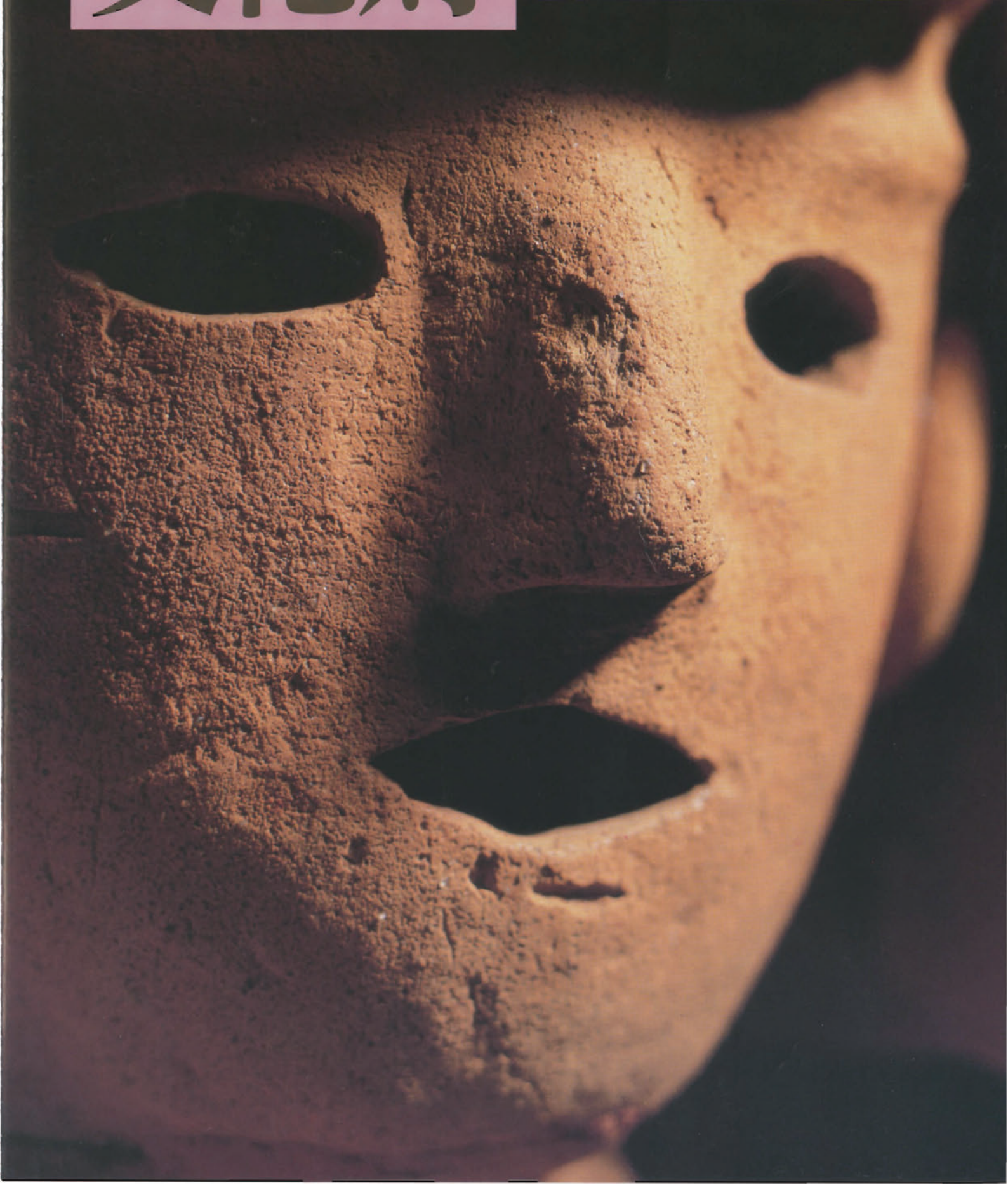
房総の 文化財

VOL.13

平成9年7月31日

財団法人 千葉県文化財センター
〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai

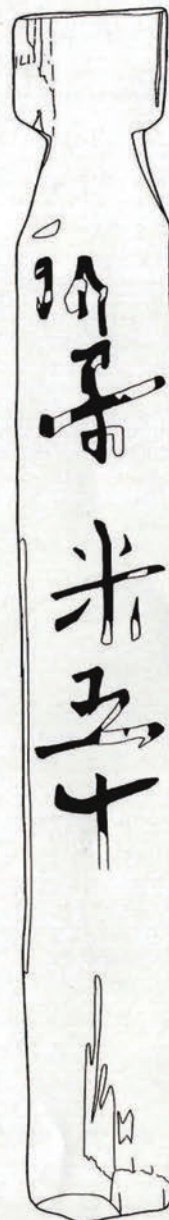


木製品のいろいろ 木もっ簡かん

低湿地にある遺跡を発掘すると、いろいろな木製品が発見されます。水分を多量に含む酸素の遮断された地層の中にあると、腐らずに残ることがあるからです。木簡もその一つで、短冊形の木片に墨書が

残り、貴重な文字資料となっています。右図の木簡は市原市の市原条里制遺跡の古代から中世の地層から見つかったもので、ヒノキ材で長さは18.2cmを測り、「□□米五斗」という文字が読みとれます。運ばれる米につけられた荷札と思われます。

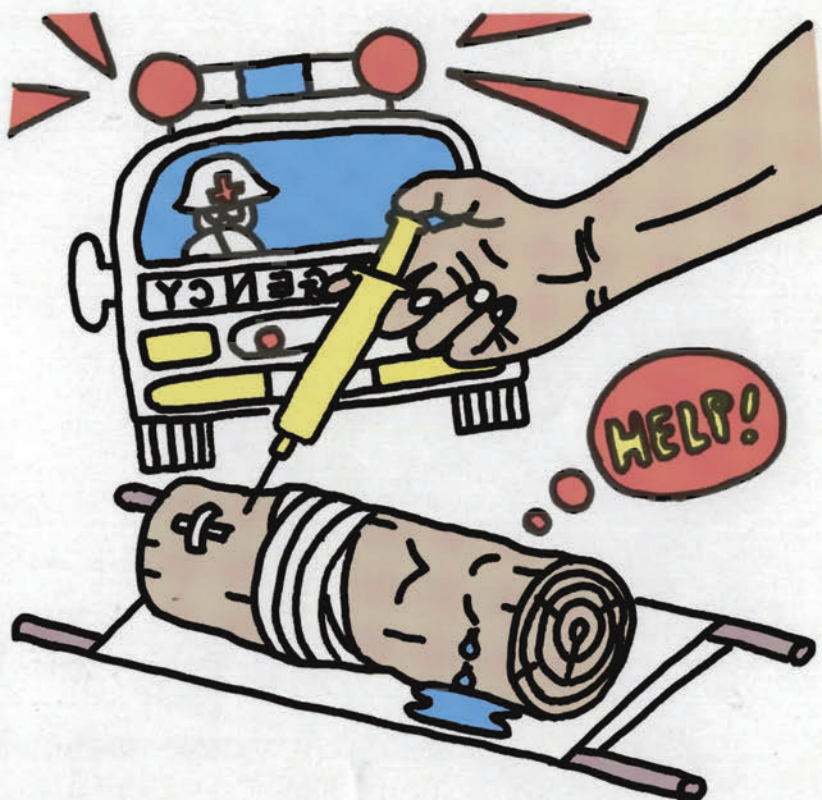
(川島利道)



Q&A

Q 木製品はどうやって保存するのですか。

A 遺跡から出土する木製品は、水分を多量に含む地層に長い間埋まっていたため、見かけはしっかりしていても内部はもろく、少しでも早い保存処置が必要です。現在、一般に使われている保存方法は、真空凍結乾燥法やPEG（ポリエチレングリコール）含浸法というもので、木製品に含まれている水分を合成樹脂に置き換えて安定させる方法です。(川島利道)



お知らせ

出土遺物展

「石の時代今むかしー佐倉第三工業団地内遺跡群ー」
期間：平成9年8月8日（金）～21日（木）、月曜休館
会場：佐倉市立白井公民館（市民音楽ホール）、入場無料、
京成白井駅南口下車徒歩3分

ふるさと文化講座

期日：講演 平成9年9月28日（日）、10月5日（日）
10月11日（土）、10月19日（日）
体験発掘 10月3日（金）雨天中止
場所：講演 さわやかちば県民プラザ（柏市）
体験発掘 我孫子市内遺跡（予定）
内容：埋蔵文化財からわかる房総の歴史の講義と体験発掘
＊往復はがきによる事前申込みが必要です。詳しくは資料部資料課にお問い合わせください。

千葉県文化財センター シンボルマークについて



今回から新たに本誌の表紙を飾ることとなったシンボルマークは、馬蹄形貝塚、前方後円墳、そして貝塚から多数出土する巻き貝の形状を表わしています。さらに、図柄全体で「CHIBA」の頭文字の「C」、及び千葉県そのものの形状も表現しています。

房総の 文化財

VOL. 14

平成9年11月1日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL043-422-8811(代)

FAX043-422-8850

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

戦国時代の山城跡 ー四街道市北ノ作遺跡ー

北ノ作遺跡は、四街道市の北東に位置する物井地区にあり、東に鹿島川を見下ろす台地に位置しています。遺跡の東の端は、調査前から土手（土塁）に囲まれた曲輪や斜面を整形した平場（腰曲輪）の存在が確認され、中世の城跡であることがわかっていました。

発掘調査は今年の4月から実施しています。その結果、城が築かれる以前には縄文時代や古墳時代の集落があったこと、その後、室町時代に墓地が造られたことがわかりました。築城の際、これらの遺構は削られて平坦面が造り出されています。土塁で囲まれた大きな曲輪（本丸に相当）の内側では、多くの柱穴が検出されました。柱穴の配列から、5棟以上の掘立柱の建物跡や門の跡があったと考え



障子堀

られます。当時の城には、江戸時代の城のような天守閣はありません。また、通路をもつ深い井戸も検出されました。さらに、土塁の外側や腰曲輪には空堀がめぐっており、そのうち、幅5m・深さ3mの空堀は、底に2m間隔で仕切りが並ぶ「障子堀」であることがわかりました。これは、敵に堀底を通路として使わせないための障害となるものです。

遺物は、中国製の青磁や瀬戸・美濃焼きや常滑焼きの陶磁器（碗・皿・播鉢・甕）のほか、素焼きの皿・播鉢・鍋も多く出土しました。ほとんどが16世紀代（戦国時代後半）のものです。建物跡や井戸とともに、多くの遺物が出土していることから、城主の一族は普段も城の中で生活していたことがわかります。

この城の名前や城主のことは、当時の文書には伝えられていません。16世紀前半は、臼井城（佐倉市）を本拠とする臼井氏とその一族である四街道地域の領主は、本佐倉城（酒々井町）を本拠とする千葉氏や原氏と鹿島川を挟んで争っていました。また、障子堀を使った城を多く



隣の山から望む山城跡



土塁と通路をもった井戸（底は未調査）



曲輪の中の柱穴群（掘立柱建物跡）

築いた小田原北条氏は、16世紀半ばには房総北部を勢力下に入れています。この城はそうした政治状況を背景として築か

れたと考えられます。（井上哲朗）

収蔵遺物コーナー

黄金に輝く刀を帯びる首長 ー四街道市物井地区御山遺跡ー

『古墳時代の物井地区。湧水の豊富な谷津田を中心とした水田開発に成功した集団の中から少しずつ勢力を伸ばしていった一族があった。』

何代目かの首長は特に知略に長け、食料を増産し、武器を購入し周辺の地区との争いに勝利した。また、中央の政権の有力者にもとりいって黄金に輝く刀を授

かった。彼は黄金に輝く刀を帯びる首長と呼ばれ、ますます勢力を伸ばしていった。

しかし、いずれ頑健な体も老いる。首長の亡骸に愛用の大刀を握らせて埋葬した者たちは一族への加護を願わずにはいられなかった。』

さて、想像はこのくらいにしますが、御山遺跡の円墳（S X 015）の石棺からは金銅装大刀（写真）、直刀、鉄鏃、勾玉、ガラス小玉、数人分の人骨などが出土しています。

金銅装大刀は残りの良い完形品で、柄頭から鞘尻に至るまですべて金銅板（金メッキされた銅板）で覆われている大変立

派なものです。

この大刀は、まさに一族の英雄である首長の姿を飾るのにふさわしい一振だったことでしょう。

（福田 誠）



金銅装大刀

遺跡今昔物語

続々刊行される調査報告書

千葉市のJR外房線鎌取駅の南側に広がる千葉・東南部ニュータウン「おゆみ野」の開発に伴い、私たちは、昭和49年から遺跡発掘調査を行っています。600ヘクタールに及ぶ広大な開発面積の中で40か所近い遺跡を調査しましたが、一部を除いて、ほとんど調査は終了しています。すでにその多くは、住宅・都市整備公団によって造成され、住宅、公共施設、商業施設が建てられ、新しい街として生まれ変わりつつあります。

発掘調査が終了すると調査報告書を作成するための整理作業に移ります。調査報告書には調査された住居跡、古墳、貝塚や出土遺物の図面や写真などが収録されています。すでに18冊の報告書が刊行されていますが、現在も多くの調査員が調査記録類や出土遺物と格闘して、報告書作りに取り組んでいます。

報告書の中には長く活用され傷んでしまったものもありますがこれこそ私たちの望むところです。

皆さんも、何かの機会に報告書を見かけた折には、ぜひページをめくって、地中から紙の上に移った遺跡の姿から、古代の世界に心を馳せていただければと思います。（福田 誠）



千葉東南部ニュータウン関連の報告書



六通貝塚調査風景



- | | | | |
|-----------|-----------|------------|---------------|
| 1. 有吉北貝塚 | 6. 生浜古墳群 | 11. 有吉南遺跡 | 16. 椎名崎遺跡 |
| 2. 有吉遺跡 | 7. 高沢遺跡 | 12. 鎌取遺跡 | 17. 伯父名台遺跡 |
| 3. 上赤塚貝塚 | 8. 南二重堀遺跡 | 13. 大膳野北遺跡 | 18. 木戸作遺跡 |
| 4. 上赤塚古墳群 | 9. 城ノ台遺跡 | 14. 有吉南貝塚 | 19. 椎名崎古墳群A支群 |
| 5. 高沢古墳群 | 10. 有吉城跡 | 15. 馬ノ口遺跡 | 20. 椎名崎古墳群B支群 |

- 21. 椎名崎古墳群C支群
- 22. 今台遺跡
- 23. 神明社裏遺跡
- 24. 小金沢貝塚
- 25. 六通遺跡
- 26. 六通貝塚
- 27. 小金沢古墳群
- 28. 御塚台遺跡
- 29. ムコアラク遺跡
- 30. 六通金山遺跡
- 31. 六通神社南遺跡
- 32. 白鳥台遺跡
- 33. 大膳野南貝塚
- 34. バクチ穴遺跡
- 35. 富岡古墳群
- 36. 大田法師遺跡
- 37. 椎名神社遺跡
- 38. 春日作遺跡

ひと がた 人形

人の形に削った薄い板に墨で顔や衣が書かれ、罪やけがれを祓い清めるために川などに流された祭祀用具です。右図の人形は、市原市の市原条里制遺跡の古代の地層から見つかったもので、杉材で長さは7.5cmを測ります。都や諸国の国府ではさかんに祓という祭りが行われたので、この人形も上総の国府で使われたものかもしれません。

き ばり 木針

右図の木針は、市原市の市原条里制遺跡の古代の地層から見つかったものです。ヒノキ材で長さは11.3cm、幅1.6cm、厚さ0.5cmを測ります。筵などを編むときに使用した編み針または漁網用の網針ではないかと考えています。

(川島利道)



人形

木針

Q&A

平成9年度出土遺物展「石の時代今むかし—佐倉第三工業団地内遺跡群—」での質問から

Q. 石器の産地はどこですか。また、どのように運搬されたのですか。

A. 石器の種類によって様々な石材が使われました。たとえば、旧石器時代や縄文時代にナイフや矢じりに使われた黒曜石は、科学的分析の結果、その産地がかなりわかってきました。県内では、霧ヶ嶺周辺・高原山・箱根や神津島産などのものが多く見つかっています。しかし、その入手方法となると、直接産地に皮

袋などをもって採りに行ったのか、物々交換などのいわば交易で手に入れたのか、たぶんその両方ではないかと思いますが、まだ具体的なところはわかりません。産地付近で石器にまで仕上げて完成品として運ばれたものと、原石が運ばれて消費地付近で石器に仕上げられたものの二通りあるようです。(川島利道)

黒曜石の主要産地

- | | | | |
|--------|--------|----------------|--------|
| 1 白滝 | 11 男鹿 | 21 神津島 | 31 姫島 |
| 2 置戸 | 12 礫石 | 22 佐渡 | 32 吾岐 |
| 3 十勝三股 | 13 折居 | 23 板山 | 33 松浦 |
| 4 名寄 | 14 花泉 | 24 大白川 | 34 腰岳 |
| 5 近文台 | 15 湯倉 | 25 霧ヶ峰・男女倉・和田峠 | 35 淀姫 |
| 6 滝川 | 16 塩釜 | 26 麦草峠 | 36 塚瀬 |
| 7 赤井川 | 17 月山 | 27 比那 | 37 冠ヶ岳 |
| 8 折腰内 | 18 高原山 | 28 安島 | 38 出水 |
| 9 出来島 | 19 箱根 | 29 三里山 | 39 竜ヶ水 |
| 10 深浦 | 20 上多賀 | 30 隠岐 | 40 長谷 |



は、千葉県で見つかった黒曜石の産地の範囲

お知らせ

千葉県遺跡調査研究発表会

千葉県における埋蔵文化財発掘調査研究の成果を公開する発表会と出土遺物の展示会を開催します。

一般の方も参加できますので直接御来場ください。

◇日 時 平成10年1月25日(日)

午前10時～午後3時30分

◇場 所 千葉市文化センター

千葉市中央区中央2-21、千葉中央ツインビル2号館
発表会(3階ホール)、出土遺物の展示(5階市民サロン)

◇その他 参加費無料。事前申込みの必要なし。

◇問い合わせ 千葉県文化財センター調査部企画課

TEL. 043-422-8811

房総の 文化財

VOL. 15

平成10年3月10日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

古代の役所跡 — 成東町嶋戸東遺跡 —

嶋戸東遺跡は、成東町の北に位置する島戸地区にあります。遺跡の付近には数多くの古墳のほか、今から1,200年ほど前に創建された真行寺廃寺があります。この寺跡からは「武射寺」と書かれた墨書土器が出土し、律令時代にこの地域に置かれていた武射郡の郡寺*と考えられています。全国各地の調査例では、郡寺は郡の役所である「郡衙」の近くに設置される場合が多く、この地域は古くから注目されていました。最近の調査で、奈良や京都などの寺院に見られる回廊のような掘立柱建物跡も見つかっています。

このように、古代の役所跡が存在する可



能性が高くなったので、平成9年10月から1か月間、確認のための調査を行いました。その結果、多数の奈良・平安時代の掘立柱建物跡、倉庫を建てるために地盤を突き固めた基壇跡を確認することができました。中でも注目されるのは、3間×5間の大型の掘立柱建物跡です。ほぼ同一の場所で何回か建て替えられていました。東西18m、南北7～8mの規模をもち、東西の柱穴の間隔は3.6m（12尺）もありました。柱穴は四角形で、1辺が1.5m以上の大きさ、深さは最も深いもので1.7mでした。柱の太さは40cmほどと考えられ、電信柱並の太さです。長年、発掘調査を行っていますが、大きさに圧倒されてしまいました。規模が大きく、方向が同じ向きになるなどの規格性のみられる掘立柱建物跡や、基壇跡が存在することなど、今回の調査で郡衙のあった可能性がさらに高くなったと言えるでしょう。

(小林信一)



*郡寺：郡衙からほど近い場所に置かれた寺で、郡の長官である郡司の氏寺の系譜を引くものが多い。

収蔵遺物コーナー

縄文時代草創期の“証” — 東金市大谷台遺跡 —

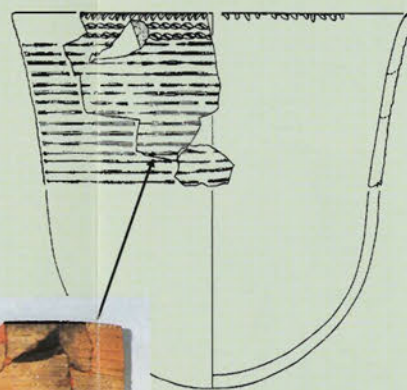
縄文土器は今から12,000年ほど前に作りはじめられたと考えられています。しかし、その始まりの時期の様子となると遺跡も少ないためまだまだわからないことが多く、なぞに包まれています。そのため、新たな発見のニュースがあれば、それがどんなに小さな土器片であっても、全国レベルで注目されることとなります。

今回紹介する遺物は、そうしたなぞの時代の土器です。東金市の大谷台遺跡は市の北西部の八街市との境に近い、馬の背状のやせ尾根に位置します。そこから、縄文時代「草創期」の微隆起線文土器と言われる土器が発見されました。ミミズ腫れのような極めて細い線を土器の器面にめぐらせた土器で、ヘラのような工具を強く押しつけ

て紋様をつくります。微隆起線文土器は、草創期の土器でも最も古い段階に位置づけられるものです。県内では鎌ヶ谷市林跡遺跡、印西市地国穴遺跡、印旛村瀬戸遠蓮遺跡、多古町一鉄田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）、市原市南原遺跡、富津市前三舟台遺跡など指折り数えるほどしか知られていません。全国的にも青森、山形、茨城、東京、神奈川、新潟、長野など日本の北東部の都県で数遺跡ずつ見つかったり、ほかに長崎県の洞窟遺跡からも出土しています。大谷台遺跡からは、残念ながら住居跡は見つかりませんでしたが、はるか昔の私たちの先祖の活動の跡を示すものとして、大変貴重なものと言えます。

(安井健一)

復元図



大谷台遺跡出土の縄文時代草創期の土器片



微隆起線文土器の器面 (拡大)

◎遺跡今昔物語◎

歴史をふりかえる新しい道

千葉東金道路は、東金インターチェンジから横芝町まで延長されることになり、平成10年3月の開通をめざして工事が進められています。

計画された道路敷地には、古墳や集落跡など38か所の遺跡があったため、平成5年から順次発掘調査を行いました。昨年8月までにすべて調査が終了し、現在は出土品の整理作業を行っています。

道路幅の調査なので、遺跡の全体像を明らかにすることはできませんが、旧石器時代から近世までの貴重な資料が得られ、遺跡の概要がつかめてきました。

さて、どのような昔の姿が見えてきたのでしょうか。調査された主な遺跡の様子を紹介します。

(石塚浩)



工事中の千葉東金道路

小川崎台遺跡

●古墳が4基造られた。そのうちの前方後円墳1基には、人物・馬・家をかたどった埴輪が並べられた。(有力な豪族がいたのでしょうか)

大谷台遺跡

●縄文時代の草創期から前期にかけてこの地を訪れた人々がいた。(くわしくは「収蔵遺物コーナー」をご覧ください)

板橋遺跡

●江戸時代、幕府によって佐倉七牧の一つ小間子牧が経営され、牧場から馬が逃げのを防ぐための土手が築かれた。

前畑遺跡

●奈良・平安時代にはムラができた。●室町～戦国時代、幅4mもある堀をもつ屋敷が建てられた。付近には共同墓地が造られた。(堀にかかる橋を往来したのはどんな人たちだったのでしょうか)

四ツ塚遺跡

●旧石器時代(3万年前)に石器作りが行われ、2か所の環状ブロックが形成された。(大型の動物の狩りをするために、たくさんの人々がこの地に集まり、石器を加工していたのでしょうか)

赤羽根遺跡

●旧石器時代(2万5千年前)に、人々が訪れ、遺跡の崖下にある礫層から大量の石を取った。(この石から石器を作っていたのでしょうか) ●縄文時代草創期に人々が訪れた。(大谷台遺跡によく似た微隆起線文土器が見つかりました)

松尾・横芝インターチェンジ

はにわ道

松尾駅

大山遺跡

●古墳時代後期から平安時代にかけてムラができ、竪穴住居と掘立柱の建物が約130軒も建てられた。(はたして、その後ムラはどこへ移っていったのでしょうか)

栗焼棒遺跡

●古墳時代から平安時代にかけてムラができた。その中にほかの住居よりもずっと大きな掘立柱建物が建てられた。(ムラにとって大切な場所だったのでしょうか)

大山遺跡



埋文アラカルト

木製品のいろいろ 又また鋤ぐわ

スコップでも鋤でも、木製の柄えに鉄製の身をつけたものが今は一般的です。しかし、少し前までは刃先だけ鉄製のものが主流で、さらに古くは刃先まで木でできていました。今回取り上げたのは、刃先まで木製の鋤のうち、刃先がいくつかに分かれている又また鋤ぐわです。市原市の市原条里制遺跡いちばらじょうりせいの弥生時代中期の畦畔えあなから見つかりました。ところで、身に穴をあけて柄を挿しこむ柄穴鋤えあなぐわに対して、身と曲がった柄とを紐で縛って固定するものを曲柄鋤まがりえぐわといいます。これは、柄の部分が残っていませんが、曲柄又また鋤ぐわの身の部分と思われます。刃先が四つに分

かれた四又よつまたぐわ鋤で、水田を耕すのに使われたものでしょう。長さは約50cmです。
(川島利道)



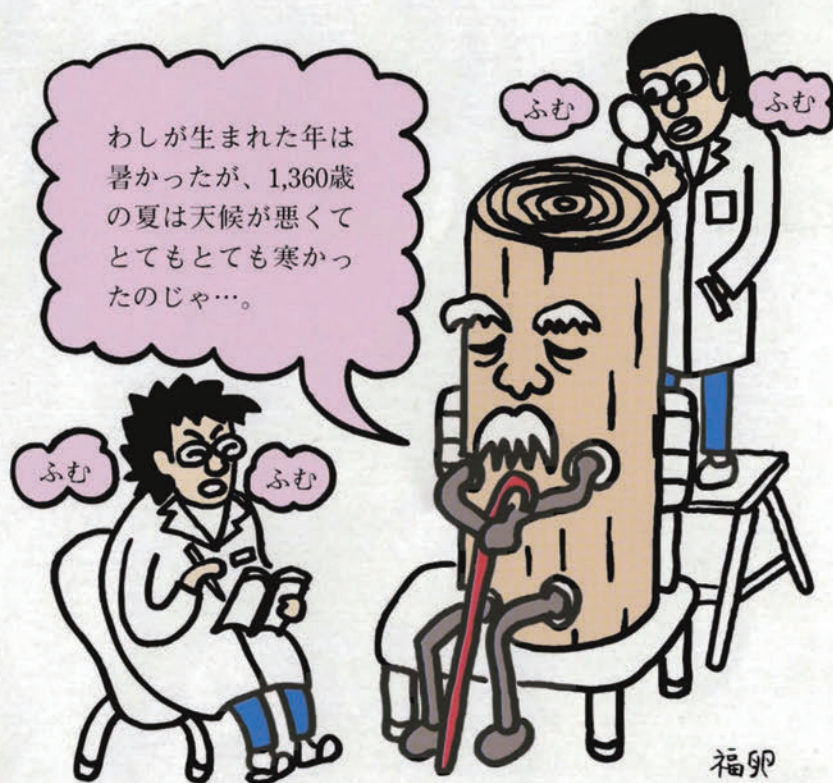
又鋤出土状況

Q&A

Q 樹木の年輪から遺構や遺物の年代がわかると聞きましたが、どうしてわかるのですか。

A 樹木の年輪には、樹木の一年ごとの成長の跡が反映されています。たとえば、寒くて雨が少ないときはあまり成長しないので年輪の幅が狭く、暑くて雨が多い時にはよく成長するので年輪の幅が広がります。このように年輪の幅から気象の変動を読みとることが可能で、その幅の移り変わりのパターンを実年代のわかっている資料と比べることで、建築材などに使われている木が伐り倒された年代を知る方法です。大阪府池上曽根遺跡いけがみそねの大型建物のヒノキの柱を調べたところ、その伐採された年代と遺跡の推定年代とのズレが確認され、弥生時代の実年代が今までの想定より約50年から

100年さかのぼるのではないかと問題提起され話題になりました。今のところヒノキやスギの場合、紀元前1,000年（今から3,000年前）ぐらいまでは調べることが可能です。



福卵

(川島利道)